

### 埋蔵文化財調査室の役割

大阪大学では、1983年に豊中キャンパスの工事中に弥生時代の集落跡が発見されたことを契機として、本学において大学施設の整備充実と文化財の保護活用を調和させようという機運が高まりました。そして、1985年に埋蔵文化財調査委員会が発足し、埋蔵文化財調査室が調査にあたることとなりました。

大阪大学のキャンパス内には、実は、多くの遺跡が眠っています。普段、大阪大学の学生や教職員、地域の方々が、何気なく歩いている地面の下には、人々が暮らした跡やお墓がみつかっており、地域の歴史を復元する上で貴重な資料となっています。豊中キャンパスは、その全域が待兼山遺跡として国の遺跡台帳に登録されており、2000年近く連続と集落や墓域として利用されてきたことが判明しています。また、中之島センター造営の折には、江戸時代の久留米藩蔵屋敷の発掘調査を実施しました。吹田キャンパスの地下にも山田丘遺跡の存在が調査によって判明し、現在、その実態を解明中です。

日本では、遺跡やそこから出土した遺物は、文化財保護法という法律により、国民共有の財産として保護・活用をはかる対象とされています。しかし、地中に埋まっている遺跡は、ビルの建設や水道管の改修といった工事によって、常に破壊の危機に直面します。大阪大学では、キャンパス内の遺跡保護と建物計画などの調整を行うために、埋蔵文化財調査委員会を設置し、その委員会の指導のもとで、埋蔵文化財調査室が遺跡の調査やその活用にあたっています。



2016年10月待兼山遺跡修学館南地点の発掘調査  
中近世火葬墓の範囲がこの調査によって確かめられた



待兼山遺跡阪大宿舍跡地地点試掘調査（2015年8月）  
須恵器小片の出土。この破片から年代がわかる。

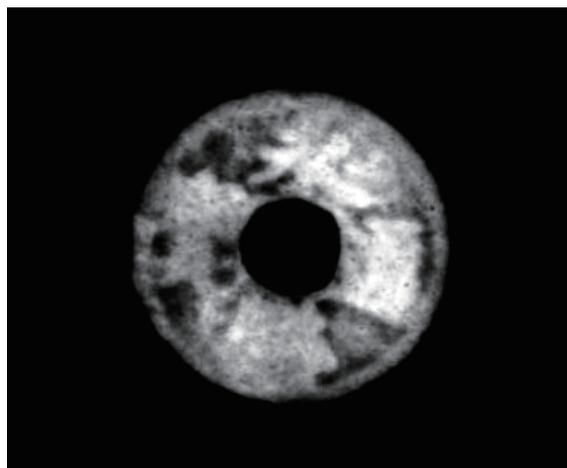


待兼山遺跡ラジオアイソトープ総合センター豊中分館  
北地点の試掘調査（2017年11月）  
キャンパス建設以前の日本家屋を検出した

## 出土品の整理作業

発掘調査のイメージは、基本的には建物の基礎や痕跡を検出したり、副葬品を発見したりといった華やかなものですが、泥にまみれた出土品を洗浄し、実測作業や写真撮影によって正確に記録する”地味”な整理作業も発掘調査の一環であり、実はこの作業によって新たな発見があることも少なくありません。

待兼山遺跡の調査でも、錆によって文字が見えづらくなっていた古い銭が、X線撮影と保存修復によって文字がはらいにいたるまで鮮明となりました（右上写真）。また、調査時には不明であった土製品も洗浄と詳細な観察によって、8世紀の土馬（馬をかたどった祭祀用の土製品）であることもわかりました。この土馬は平城京で多く発見されていることに加えて、古代の道路付近で発見されることが多く、待兼山遺跡の北を通る山陽道との関係性が判明します。



永楽通寶のX線透過写真。

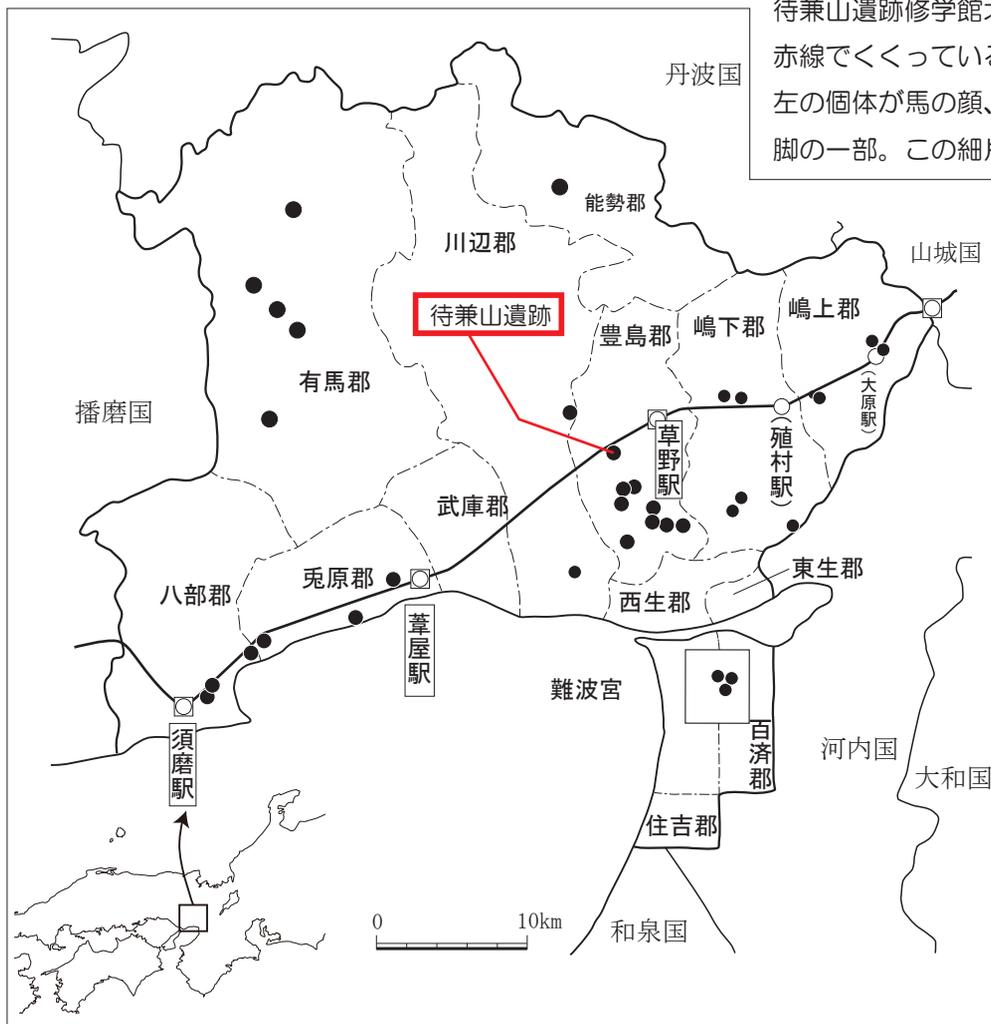
永楽通寶は織田信長の旗印としてももちいられた。



待兼山遺跡修学館北地点出土土器（奈良時代）

赤線でくくっている赤い土製品が土馬。

左の個体が馬の顔、真ん中と右の棒状のものが脚の一部。この細片から復元できる。



摂津における土馬の分布

桐井理揮 2015「摂津地域出土土馬の検討」『待兼山遺跡』V  
大阪大学埋蔵文化財調査委員会  
論文中図を一部改変

## 吹田キャンパスでの 新発見

2014年秋、吹田キャンパス工学部A12棟付近で実施した調査では、0.7 mを掘り下げたところで瓦が出土しました。この瓦は建物跡などの遺構にともなったものではありませんでしたが、周囲に瓦葺きの建物が存在したことを示すものです。

瓦は丸瓦に分類できるものであり、最も残存状況の良い資料は残存長 19.7 cm、径 10.1 cm、高さ 5.2 cm、湾曲比（高さ／径）0.52 を測ります。外表面は丁寧にナデ調整され、凹面にはコビキB（粘土を鉄線で切り離したときの痕跡）がみられ、さらに細い棒を用いた内叩きが観察できます。これらの特徴から江戸時代後半期のものである可能性が高く、付近にこの時期に建てられた本瓦葺きの建物が存在した可能性がでてきました。



工学部 A12 棟付近での調査風景



工学部 A12 棟付近から出土した瓦の内面

## 大阪大学の過去を 遺物から探る



待兼山遺跡阪大宿舍跡地地点から出土した陶磁器

大阪大学構内での埋蔵文化財調査で出土するモノは、2000年前の土器や500年前の銭といった古い遺物だけではありません。大阪大学の歴史を示すような資料も発見されることもあります。2015年の調査では、「恵」や「Handai Bunin」のロゴのある陶磁器片が出土しました。調査を進めていくと、「Handai Bunin」は「はんだいぶにん」ではなく「阪大分院」、「恵」は現在の一般社団法人恵済団のロゴマークであることが判明。記録などにはのこされていませんが、どちらも阪大医学部附属病院石橋分院（現在の大阪大学総合学術博物館待兼山修学館）で食器として用いられていた可能性が高いと考えています。

# 埋蔵文化財調査室の アウトリーチ活動

大阪大学 × 大阪ガス  
アカデミックッキング

## 作って、 学んで、食べて！

土器 土器 大阪大学埋蔵文化財調査室

### 三度おいしいドキドキ考古学

**発掘調査で必ず出土する土器は、考古学の研究にとってとても大切なものです。土器のかたちや文様、作り方などを観察して、考古学者は遺跡の年代を知り、歴史や文化、むかしの生活を復元しています。**

この講義では、土器の素材である粘土をクッキーの生地に、土器づくりの工具を調理道具に、土器を焼く炉や窯をオープンにかえて、クッキーをつくりながら土器からわかることを“おいしく”学びたいと思います。

どれが本物の土器で、どれがクッキーかな？

（ヒント：クッキーは6個）

米づくりをはじめた弥生時代の土器と、豊中市待兼山遺跡（豊中キャンパス内）の発掘調査から出土した古代の食器の現物を、当日、手に取ってご覧いただけます。

なかくぼ・たつお/三度の飯より土器が好き。高校時代より考古学に興味を持ちはじめ、現在に至る。古墳時代から平安時代を対象に、土器のカラから当時の社会や文化を研究しています。

講座名/ 大阪大学 × 大阪ガス「アカデミックッキング」vol.61  
「作って、学んで、食べて！三度おいしいドキドキ考古学」  
日時/ 2016年10月23日（日）10:00～13:00

講義（40分）  
料理実習（50分）  
試食（20分）

「土器をテーマにドキドキクッキング♪」  
①これって本物？比べてみよう！土器型クッキー ②土鍋で簡単！鶏肉と野菜のトマト煮込み ③古代米のこはん

会場/ 大阪ガスクッキングスクール千里（裏面に地図）  
対象・定員/ 小学4～6年生とその保護者12組 ※子どもは2人まで可。  
講師/ 中久保辰夫（大阪大学埋蔵文化財調査室 助教）  
受講料/ 一人1,750円（税込）  
持ち物/ ハンドタオル、筆記用具  
主催/ 大阪大学 21世紀懐徳堂、大阪ガス株式会社

■大阪大学 × 大阪ガス「アカデミックッキング」とは、「食」や「料理」という身近な切り口から、学問的なものの見方・考え方を身につける教養講座です。専門的で難解な大学の先生の研究でも、どこかで普段のわたしたちの生活とつながっている…。そんな楽しい実感から、日常生活にちょっと変化をもたらしアカデミックな思考回路が生まれます。あなたも一緒に、ガスで作る料理から新たな学びののびらを開いてみませんか？

お申し込みは、大阪ガスクッキングスクール千里 <https://www.og-cookingschool.com>  
講座内容のお問合せは、大阪大学 21世紀懐徳堂 TEL.06-6850-6443 大阪ガスクッキングスクール千里 TEL.06-6871-8561

埋蔵文化財調査室ではアウトリーチ活動にも力をいれています。大阪大学や地方自治体が開催する講座等の講師に加え、いちょう祭での待兼山遺跡発掘調査速報展示、JICA・国立民族学博物館の博物館学集中コース個別研究への協力と、ほぼ3カ月に1回のペースを保ちながら、調査・研究成果の公開を行っています。



JICA・国立民族学博物館博物館学集中コース参加者のみなさんと（上：2016年度、下：2017年度）。

大阪大学 × 大阪ガス「アカデミックッキング」のチラシ



いちょう祭での待兼山遺跡調査成果公開（2016年5月）



大阪大学×りそな銀行「人文・社会科学系研究から考える企業の課題」プロジェクト 事前研究会（2017年11月）

編集・発行：大阪大学埋蔵文化財調査室（室長 金水敏）

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

電話・FAX番号：06-6850-5106

HP: <http://www.let.osaka-u.ac.jp/maibun/index-maibun.htm>